

香川県新川・春日川河口干潟において採集したゴマフダマ

深尾 剛志

〒761-0795 香川県木田郡三木町池戸2393 香川大学農学部

Paratectonatica tigrina (Naticidae) collected in the river mouth tidal flat of the Shinkawa-Kasugagawa, Kagawa Prefecture

Tsuyoshi Fukao

Faculty of Agriculture, Kagawa University, 2393 Ikenobe, Miki-cho, Kita-gun, Kagawa 761-0795, Japan
e-mail: fukao@water.ocn.ne.jp

はじめに

ゴマフダマ *Paratectonatica tigrina* (Röding, 1798) は干潟の中・低潮帯から潮下帯の砂泥底に生息するタマガイ科の腹足類であり (山下, 2012; 鈴木ほか, 2013), 環境省レッドリスト2019 (環境省, レッドリスト2019) では絶滅危惧 I 類に指定されている。かつて瀬戸内海全域において普通に見られた種であったが, 現在は岡山県笠岡市, 愛媛県西条市, 広島県江田島, 周防灘に限られている (山下, 2012)。香川県における記録は, 筵灘東部・備讃瀬戸西部海岸からの報告 (畠山, 1977) と高松市海岸からの報告 (吉松・深尾,

2018) があるもののいずれも死殻であった。著者は, 香川県高松市東部を流れる新川・春日川河口干潟においてゴマフダマの生貝を確認したので報告する。

調査方法

調査は, 新川・春日川河口干潟の低潮帯域において (図1), 2018年4月~10月と2019年5月~10月の干潮時に計12回実施した。30~90分間歩きながら目視で探し, 採集したゴマフダマについて殻長を0.1mm単位でノギスを用いて測定した。最初に採集した個体は標本として80%エタノールに保存し, それ以外は調査終了後元に戻した。また, 確認できた

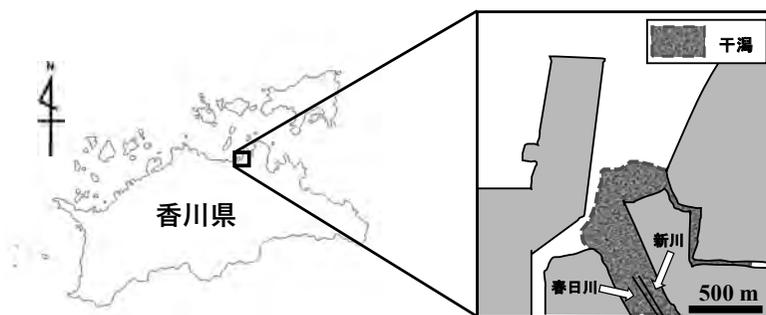


図1. 調査場所

ゴマフダマ以外の底生動物についても記録した。

結果および考察

ゴマフダマを確認できた場所は、コアマモおよびアマモの群落が点在している砂泥地であり（図2）、貝殻の一部が砂泥に潜った状態の個体を採集することが多かった（図3 A, B）。2018年は8月11日の2個体、2019年は5月8日の1個体、7月5日の3個体、9月1日の1個体の計7個体（殻長：14.6～28.2mm）のゴマフダマを採集したものの確認できない調査日もあったことから（表1）、新川・春日川河口干潟では生息個体数が極めて少ないか、あるいは分布の中心が潮下帯にある可能性が考えられる。岡山県と広島県で見られるゴマフダマは有明海からサルボウとともに人為的に移入された可能性があると報告されている（山下，2012）。新川・春日川

河口干潟には漁業権がないためサルボウやアサリ等の二枚貝を他の干潟から移入している可能性は低いことから、ゴマフダマの人為的移入の可能性も低いと思われるが現時点では不明であり、今後詳細な調査が必要になる。

ゴマフダマと同じ場所で確認できた他の底生動物は、軟体動物11種、節足動物10種、環形動物4種以上、腕足動物1種、星口動物1種および刺胞動物1種であり（表2）、多種多様であった。ゴマフダマやツメタガイのような肉食性巻貝は、アサリやマテガイ等の二枚貝を主に捕食している（田中，1954；平山ほか，1996）。しかし近年、新川・春日川河口干潟に生息する二枚貝、特にアサリは減少傾向にあるため（一見ほか，2011）、ゴマフダマが餌不足により絶滅してしまう可能性も考えられ、今後ゴマフダマの個体数だけでなく餌となるアサリ等の二枚貝の個体数の変動も注視する必要がある。



図2. 調査場所の景観.

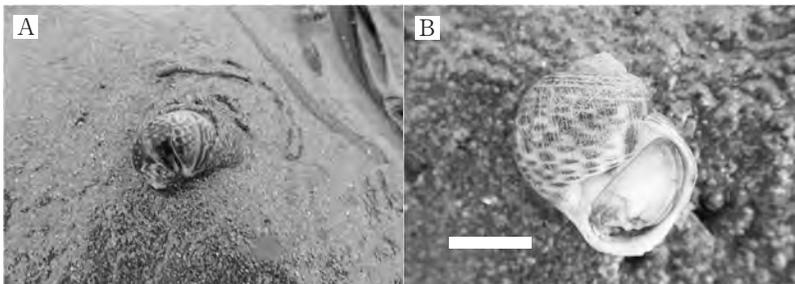


図3. 砂泥地中へ潜るゴマフダマ (A) と採集したゴマフダマ (B). 白スケール：10mm.

表1. 新川・春日川河口干潟におけるゴマフダマの生息調査の結果

調査日	採集個体数	殻長 (mm)
2018年 4月28日	0	
5月20日	0	
6月17日	0	
8月11日	2	25.1, 25.5
9月23日	0	
10月28日	0	
2019年 5月8日	1	28.2
6月19日	0	
7月5日	3	14.6, 18.2, 27.3
8月2日	0	
9月1日	1	23.7
10月19日	0	

表2. 調査中に確認できた他の底生動物

種名	
軟体動物	アカニシ, ウミニナ, ホソウミニナ, ツボミガイ, イボキサゴ, アラムシロ, ツメタガイ, マテガイ, バカガイ, アサリ, ホトトギスガイ
節足動物	マメコブシガニ, ガザミ, イシガニ, ニホンスナモグリ, ヨコヤアナジャコ, テッポウエビ, エビジャコの一種, コブヨコバサミ, ユビナガホンヤドカリ, テナガツノヤドカリ
環形動物	タマシキゴカイ (卵塊), チロリ類, イトゴカイ類, ゴカイ類
腕足動物	シャミセンガイの一種
星口動物	スジホシムシモドキ
刺胞動物	ウミサボテン

引用文献

畠山祥一郎. 1977. 香川県海産貝類目録 (その1, 燧灘東部・備讃瀬戸西部). 香川生物6: 1-10.

平山 泉・石田宏一・鳥羽瀬憲久・平田 満. 1996. 緑川河口域で見られたツメタガイによるアサリの食害. 熊本県水産研究センター研究報告3: 12-17.

一見和彦・住元宏栄・中山浩登・多田邦尚. 2011. 人手と干潟の生物環境—干潟底生生物の現存量と種多様性に与え得る人間活動の影響—. 沿岸海洋研究48: 109-116.

環境省. 2019. 環境省レッドリスト2019.

<http://www.env.go.jp/press/files/jp/110615.pdf>. 2019年6月閲覧.

鈴木孝男・木村昭一・木村妙子・森 敬介・多留聖典. 2013. 干潟ベントスフィールド図鑑. 日本国際湿地保全連合. 東京.

田中弥太郎. 1954. ゴマフダマがアサリの殻にあけた孔の特性並にゴマフダマの歯舌について. 貝類学雑誌18: 34-39.

山下博由. 2012. ゴマフダマ. 日本ベントス学会 (編). 干潟の絶滅危惧動物図鑑—海岸ベントスのレッドデータブッカー: 60. 東海大出版会. 秦野.

吉松定昭・深尾剛志. 2018. 「干潟の絶滅危惧動物図鑑—海岸ベントスのレッドデータ

ブッカー」に掲載された底生動物に関する
香川県における知見. 香川生物45：57-74.

訂 正

1. 前号（香川生物第46号）掲載の「香川県
木沢湾で確認した貝類」中において、P8
左側のオオノガイの説明の後に（文献）吉
松・深尾（2018）を追加します。多大なる
ご迷惑をおかけし、心よりお詫び申し上げ
ます。
2. 前号（香川生物第46号）掲載の「香川県
木沢湾で確認した十脚目甲殻類」中におい

て、P15左側のカクベンケイガニの説明の
後に（文献）山崎（1983）、有馬（2016）を、
P16左側のヤマトオサガニの説明の後に
（文献）山崎（1982）を追加します。

また、P16右側の引用文献「有馬弘之.
2016. 木沢湾廃止塩田水路の砂泥地におけ
る動物相, 香川県立五色台少年自然セン
ター自然科学館研究報告, 41, 15-22.」を
「有馬弘之. 2016. 木沢廃止塩田水路の砂
泥地における動物相, 香川県立五色台少年
自然センター自然科学館研究報告, 41,
15-22.」に訂正します。多大なるご迷惑を
おかけし、心よりお詫び申し上げます。